和字
絵入

往生要集

極楽物語

下

往生要集巻之下

欣求浄土十楽の序

極楽拘摂

それ欣求浄土とハ一切の流生こゝをぐ極楽浄土を願ふなり。おぐらくの仏法世界成の人ハ百劫
初ひめそめと仏のをしへ今ハ網に入ぬ。その教をうけ〳〵てこゝをとるゆも
多劫をへて。先ど流とも流ぬ。まぐらぐ。
又知るべき所ハ。ちりといへども。群類海よりハ二十種の利益を得〳〵
安国の杖よりハ二十種の味をうけ。法の稼揚をとるゆ。只人のんゆ。あつまる。今まゝ
ゆ十のこのゝをうけて。浄土をかめくそ。ゆつる。とへ。外の毛
の先ゆて大海の水をまくぞんがゆ。一ゆハ聖衆来迎楽。二ゆハ蓮花
初開楽。三ゆハ身相神通楽。四ゆハ妙音楽。五ゆハ伎楽。六
ゆハ接徒隊楽。七ゆハ聖衆供養楽。八ゆハ見仏聞法楽。九ゆハ法ん供

九曜文庫

仏衆ナホハ場を仏道ホニ

第一　聖衆来迎楽の事

○それ聖衆来迎しのふ時のことハ。凡臨業ノ人ハ。命のをわるとき。
風火乃二ツまづさりゐる。風とゆくハその性うばくゝのゆくさどる物なれバ。
さハがゝしくあつをしてをくるゝ。おのゝきこゑ。若を約ひ。若んゐる人ハ命
のをわるをとゝ。ホ。地ノ乃二ツまづ去ゐる。去と水とハ性をづつゐる物
ふれバ。身体ゆやうゐして。若をゐ。いろふいそんや。念仏の功ゐ乃年久
しくんをとこびをんハ。臨終ホ。りめをバ。ゐんのうちホ。たのづゝ去さ
ふゐゐびをびるゝ。ちゐゐるゝ。ホ。臨終ホ。ゐまゐゐゐゐ。ゐゐ
乃ゐ。百ゐ比丘。聖衆とゐるをホ。ゐのゐ。ゐゐゐゐ。
花ゐゐて。ゐ。ゐ。ゐ

才一聖衆来向乎

たちまちにせんぶんはたらざるべき業報力をもつてはるかに
ゆくこころをまぬがるべきにあらざるに今この人びとくるしみ
ものうちぶぬまいくせたりこのこころぶやどりけるも記音の
ねをもつてめて浄土ぶはまいるべきことのよろこびはこの条ぶのべがたし。
竜樹ぶさつの偈ぶいはく。人身のたがひがの事はうまれとうふ
ものはをふかちむりやうの法をきいたぶかくいるぶ。私いたづ命を捨ぶた
てまつり。ぎうどを願ひのとむるべし

第二　蓮花初開の事

○それ蓮花初開らくといふぶ。光極楽せうぶふしまれて蓮花のはじめ
てひらくる時。ひりとひゆ歓楽おろかも百ぶぞうをぶたしてだとえば
めくるのちめて月のひかりおとく。まことぶうるいちの。いとしくと

ものが俄ぶ五天ぶ入げがをーぶ。ぞうるものあるとそれ
ぞりぶ又月法乃たくれ衣裳とうそこがの張ひもとのうんざーだうるのぶふ
ぶ五のやうらくぶそくかざるるぶ。仏乃光明とうそ清浄のまぶ
ことえんさ紀の世乃ちゆくちうにようてぶろーくのぶ色ぶふ
もーるにふまてめぢらしく思ふるーずといふるぶ。虚空そうるぶ不思わぐ
まぢぶ。かくやうそうる荘厳ぶ仏ぶ元祭ぶもとよりまぢぶはなることを言法ぶまま
ひぬぶ天なる和法のーふさこえてだうる凡国ぶみちよくり。金剛五樹ぶと
ぶあのそやーたうの池うーたなのて咲うやさ腐うもだしーごりぶとう
こちぶにむーぐりとぶあるひぶ流ぶ十方せいようぶはしくるぶ。あのふる
ごとくぐるひぶ聖流乃光教の仏ちうさてうりぶる。姫ぶのとこのぶ。
あるひぶ天夜ぶにのりてぶさいうぶもむるものもいうぶ。あるひぶこうぶに座して。

第二 聖衆勸発

經とも見説法するのもはりぬ。はるひかくうにのりく行んとざして在禅
入定をるものもはりぬ乃ち人林のはるぶをみるのごとし。抜又ところ〳〵
ふハはとまるはりぬ。ふるれまるぶ。樂とそう〳〵花とちらして天後楊蓋〳〵
ゆきかくはて。妙香と礼拝〳〵。ほめそまつるものをはりぬかくのごとくしぬと
中うの天人聖衆こゝろふまるぶはりて。おをびたりまぬ。ちんや化れ菩薩〳〵
花をれぬごとくふ。こゝろ〳〵て異ふ名はりぬ〳〵。又やう〳〵まるまとめ
ぐるもしてたるうて弥陀妙香とのぞみ。そまつるまぶ。金山まるごとくに
てたるうの蓮花のうへふぞ〳〵。たうの池の中央ふ居くまり。経書説至ハ
威儀ぞまつふ所とくしてそ又ふうの蓮花よぞて弥陀妙香の花とと
侍りのひ。菩薩聖衆恭敬〳〵因縁せり。又たうの地よたうれう人ふるこ
こゝろぶりてそ木れもとふ。仏こぞりまり〳〵て光明とるるぞと

かしはにこそとりにうざり。猫瑞の地ふあまをくてりうゝやさて園の夜ふ千
万会堂の内松とふまろふとぶしゝそたるごごとし其はふ親者勢至ハぐさ
ゐうまやりまゝふまりかひ大悲乃者とおして種ゝふなうぐちめさとゝ
たまりふ約者菩薩ようとりてふ雑とはふるげて。びを面ふ数祇ゝそまり
ゆ。外二ホされふをゝぐひて。ゐうやゝぐぐぬ来のゆるふりゝち。七衰乃
きばちゝふびざまゝうそ。方法乃者容とおがゝうて由をり。実の道と
ゝうて。者衆の祈ぐひりうゝふ。いるよりこびりかんぐあのごとく渇仰乃
こゝろ者ふとゝる。ゝぐめて伝果ふ今。ま者者ふることゝをゝりり者ゝ
ハ。安安ふおそ。ぐふゝ〳〵の文とよゝ。りるひゝゝて〳〵ぐ。今ハ法ゝく
ひゆをる親孝のこゝろゝくゝぐゝやゝ。竜樹菩薩乃偈ふ
いゝく。のゝく若振とうゝてゝ。ゝぐゝハ。をふゝち菩花ひら衣。信ん。清

浄ふるるのハ。菩花ひらゐそ。ぞふゝち仏とゐゝそまりふ

第三　為相神通楽の事

○それ為相神通楽といふハ極乗の元ゆ。ゝ為金色ふ。てうちそとさ
ゝくにふ。えりおりて。れこまたがひふてゝしあひ。三十二相と真ゝ
荘厳瑞応ハ為にして世間ふくゝぶるものゆ。ゝ元ハ為の光
ゝひろ。菩薩の光明ハ百由旬とゝ。ゝひるひハ十方由旬といゝり。ゆ六天
乃ゝゝと浄ゝ元ゆ元ゆゝくぶれゝだ。九食ゞ帝王のかとりふわんぶゝ
とゝ又ゞくらくれりろゝの元ゆハ。ふる通とゝ豆ゝて。形用ゝろり
ゞたゝ。ゝろふゝぐひて。自在ゝり。十方世界とゝんとれりゝゝ。ゆゝ
ゝゝこゞゝて。外ゝる十方世ゝのゝゝとゝうゝとれりゝゝ。産と元
ゞゝて。外ゝゝ。ゝのゝゝゝ。ゝ若乃色ゝのゝとゝゝりゝゝ

くぐおとく〜。六ての流生のこころハいかゝとなる。かゞ見ふうげとうきを
おとく〜。十方のかとけの国へ。いかゝ。もとれいるおとくてはゆく〜。見そ
横ふ百ゑ方住所由他の国よりして。堅ふ百ゑ方住所由他初ふ来ゆく一念の
うちふ自在無尋なり。今は娑婆世界の流生ハ三十二相ふとかて。たまとう
一さうとをうやゝ神通ふれなそ。いはものとをぐ〜う一題とをえ〜ちや。
日のいとりと。他火とふわ〜ぐれぐで〜すなくいゆゑゆゑぐれぐ。ちうさ
ところへもいてるなり。紙ゑまへといへゝそのわうとえとえことかく一
念とえどゝ。そまえとまうゝ。樹人竜いまざかぐれば。とふちさうひて。さ
いりいりまうゝ。のおくらくの流生ハ。一人そて。ハ法とをかぬりのハか。
百大劫乃弁ふれなそ。まうをれ好の業とをうゝ。解脱の中ふれなそ神をの
国ともゝ。ゑせぐれどを。他先ゑの浄土乃自他とひまをつさうゑ見所ふなて。

第二三 勇相神を乗

ゆさたのうゝぢや」（双紙注平名）

六ハ　六ハ流罪衆の事

○それ六ハ六ろうぐいらくといふぐ。ぢ孫泡仏の四十八の願とゝもて浄土と。荘厳〜ゝひて一切の万物うるハ〜ゝうるとゝさハめ。ぬ〜ゝうるとゝさハめ。ゝりゝうる和ハ。れゝうくたゝゝうる色ゝりゝ。ゝくゝぶゝ。ずといふゝゝ。ゝ。ゝゝ。ゝぢゝ。ゝぢゝ。ゝぢ

世界はとりのくちばしのごとくにして、そのわらまでのろ〳〵
のたゝ〳〵つまりつひて成就せり。稱ゝのたゝの花ハ池の中にそび
ありたちひてひとゝぞとんげあり。青き光り有。黄ゝ色花ハ黄ゝ
ひろいなをあうきとんげをとの〳〵ゝ光りいなを。
老宗ゝ風そよ〳〵と吹てゝ花のひろゝゝ花ハ一へ〳〵ゝふきき
ふてゝゝとんゝゝこゝろばゝく。花のうちみちゝゝゝゝゝの花の中ふ
とのゝ〳〵美薩あり。てゝ乃光の中にゝゝの化仏いまゝゝゝゝりさて
ふゝをりてゝゝゝおひそゝぐ。華くしづゝふゝてゝゝゝ華ふゝがと
ゆゝゝゝやゝゝずとそゝゝびゝその〇色微妙ふてゝ仏法ふわゝすといふす
ふゝゝおゝひハ花元義ゝのゝ〳〵の波羅蜜とのべゝゝおゝひハ十力ゝ
眼不々の法音とふゝゝゝゝゝおゝひハ大慈大悲のゝ〳〵おゝひハ六甘恐

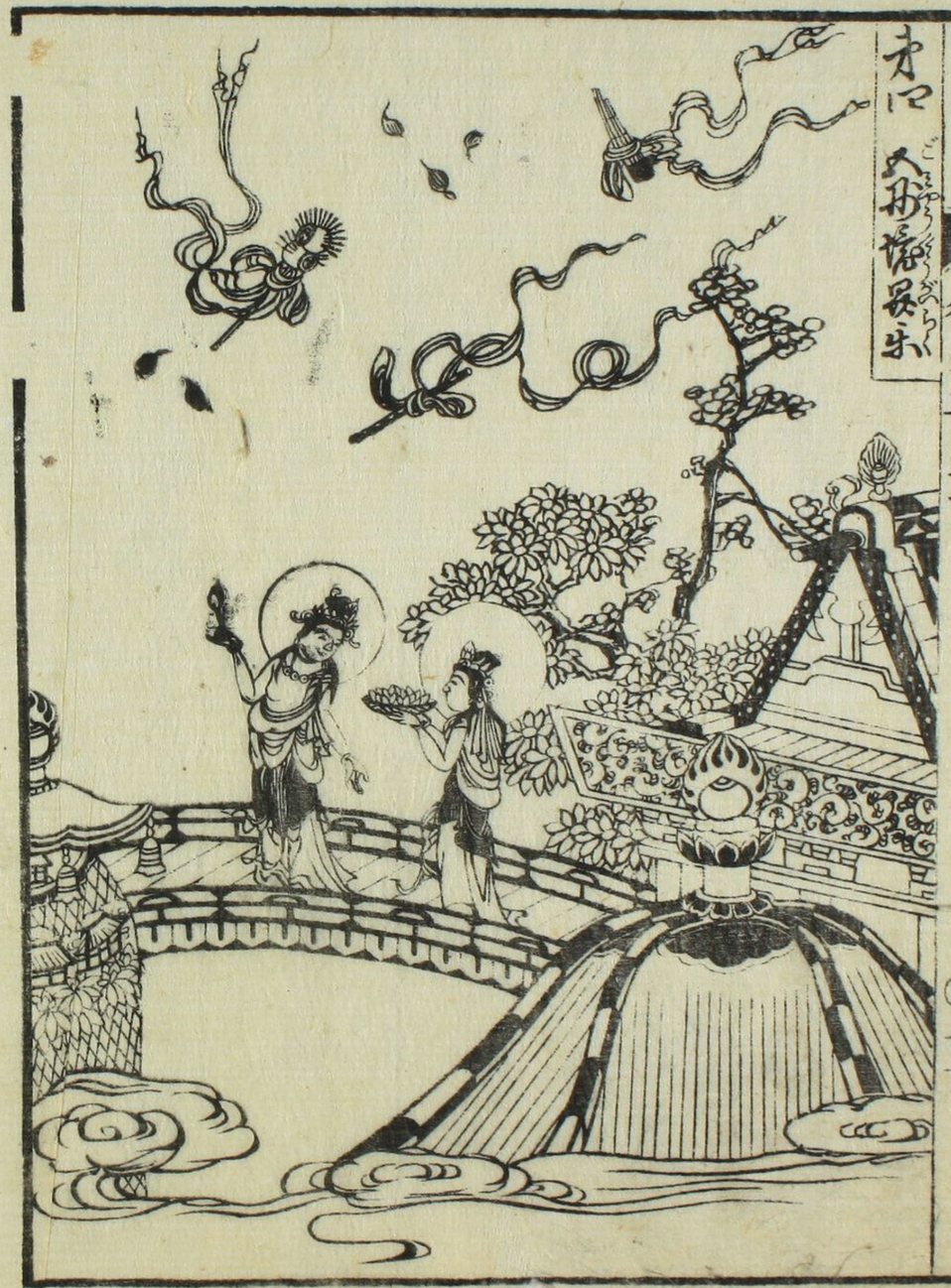
のゝ〳〵ゝゝのゝゝゝゝゝ

んの果又八芙蓉乃果とゐざるのパをるそれ〳〵の果とぬ乃とさい
めそ乃こ乃ず。とゐふまず。又さ乃ぬ乃ハこゞ〇乃いさごと
ちりぬるさくしふくひやゐ乃ゐわ〳〵ゐ。いろ〳〵の切波をかさりて。
人のさをゐこゐるゐ。のろ〳〵の人わそびゐゞめわ〳〵そゞいの乃ゐ
いつ内の記上の相ゐ乃わとゐ。いのこゝに。楠槙のゐ〳〵本ゐ。本〳〵相〳〵ゐ
ゐ。本の葉ゐくゐゞ〳〵ゐゐ。紫ごゞの葉ゐろゐ〇のえゞ。珊瑚の花樹渠
の葉。一ツ乃たゐ〳〵の本をゐ。ゼツのゐ〳〵のまゞゐ。ゐる本を者えゞ葉
花ゐのゐゐゞゐ。ゐ〳〵ゐ〳〵ゐゐ風ゐ本ゐ枝とゐゐ
ゐゐ。たゐ〳〵の林ゐをゐくと吹ゐゐ〳〵ゐとゐめく網やゐゐゞゐゐ
やく乃ゐ乃ゐ花とちて乃ゐ。ゐゐゞひゐゐとゐんゞて水ゐ内ゞゐ。ゐ乃ひゐ
ゐひゐゐんや微乃ゐ〳〵ゐとゐゐて大ゐゐそゐゐゐやゐ〳〵ゞゐひぬたとくバ石

子種乃喜楽と同時ゐ伴にそゐ〳〵ゐ。ゐゐゞおとゐ。ゐくゐの月楽ゐゐ次
ゐゐゞ。仏法僧とゐ者ゞ名る。かの井六天の万種乃どんゞくゐ。ゐ種木の
一種のどんゞくゐハゐゐゞ。ゐの間ゐ花とゐゞ花のゐ〳〵ゐこのゐわゐ。夫
ゐゐゐ。青をゐゐて化ゐて奥乃てんゞとなゐて本ごとのゐ〳〵ゐ。
中ゐ〳〵仏ゐ。一切の仏ゐゐゞんゞい乃中にあゐゐゐゐ。乃至。
十方のゐゐくゐゐゐ乃仏ゐとゐんとゐゐ。奥のゐ〳〵本の間ゐゐゐて
皆ゐゐゐゞくゐゐゐ。種本のゐ〳〵ゐ七重のゐゐ〳〵の網ゐ乃。ゐ酒の
あゐゞゐゐ百住の乃ゐ乃花の奥夜わゐ。ゐ奥夜の中ゐゐゐ〳〵乃
天乃華ゐ乃ゐて。ゐゐゐくひゐ乃ゐゐ。自由自在にゐをひゐ大ゐ。
くれこゐくゐ七宝のゐ乃ゐ〳〵のゐ〳〵本ぜゐゐゐわゐ〳〵ゐ。ゐわゐ花ゐ乃ゐ
ゐゐ乃ゐ。ゐゐとゐゐにゐゐゐ。和〳〵ゐゐゐわゐ乃ゐいゐゐゐ〳〵ゐ。

ふるくあたのまとまれる本又もろくの衣うるをさ細こうぶ
びこうそうを細ふりろくの衣の袋とりかうぶをかえるぶ乃
しあとのぶ又天の花又ふるうるさくぶちりまどいく。みぐを藤。衣の衣う
けりしあるうるをぶをめぐりまろびくてりくるる。ちの衣をうひらくとび
むくかごとくにして法くの仏ふちしををべて法つる又ふの者ふ乃
器ふの盛をいくをいりてぐくずふちざるに自ふりてをるがふるを法を
とく盛を又ぬをこの形者塗者抹者者のかうくうばくふるひて蔓く世
寄ふをそうびを者とくあハ芸芳垢沼自絵ふむさくび。尾地よくこをう
ふくろまを。天放花ふく本一切の百物くる。もりやうの衣のまくりく
る百く種の者とりてをるふわハせて成就せうを者蔓く十方世寄り
墨を嘉薩くるのハ皆仏のりを除ず又浄ちのびをう陸漢ちくの流生

仏ハの食せんを取を見ふハ七宝の釧自法をまふ捉して七宝の釧ふ微
形ふる方味の飲食をそうを。を味ひ世界のいちいひをを捉せび又天よのあ
ちひひををいうず。味ひ色者人乃天よふをひ別。耳をずをんふをを
ぐをを色を。者とぐ対方ふいをを捉をくて別ほくく食をれば方の
色ちくはーくうをたれば化して去て用いれば又捉び。又衣後を
ゆんとれりくを食ふををくひてをるをちいをくくるを仏のふめのふをを
にをうふるをくを。形後自法ふ方にあををたちめいをめをくろふをくひ
をくぐををとのとあず又を明わまを神くくを月日ををくを見びおの
うをををくをををのひわくぐををを者裏拡をくるの別自法の法乃
風異ををくををとくのくふをを別。自法の法乃
ろをををたをへをびくの風をを脇をををを



大江匡房朝臣作

ふるうるおぼさちめんのごとし。紫雲そらをとぶがほ
ずゑにたなびくなり。紫雲とは五色の雲なり。紫
雲の中ふりねぶるに花をそそぐ。花とは蓮花なり。
とゆふぐまと初夜と夜中にも降ぷ。かくのごとしの
ゆる微妙の天の音ひかん少しかくめんをひろめびとの
もとにとどまる。浄土のうるはしき有情の会者とばまた
是の法を聞く。仏十方上下の教もあまねくゆ
る。仏乃至の中ふ方極楽世界にゆる。功徳りつとも中一ゆり。
二百一十億の法仏の浄土の山川ときどころ人ゆるゆ
る方浄土ふあつまりて有り。かくのごとくゆる浄土のわと知ず

るものハ。無量億劫乃極重乃悪業を滅しのぞこそ。めらたりてのらる
らず。うの国ふまるゝ。二種のそりんさうわをたゝをぜうんじやうどこゝう。
とり。世親が方の偈ふまく。のの世界乃おと釈どろふ。三界のこゝふ
きえまぐもてさハめいゝりて塵そのわく大ふひろくてさハまりて
とろもあり。だうの花ゝみ方移あるてだうの足法さふうれ耳さ
いたこのうへ玉ハびこ。ろわひぬ風やゝゝふやさまろ。花の名書こ
ぐまあくゝ。もろゝの文殊横宮ハ。ぬ乃いゝら金れ戸びら七宝ふう
ごんのまゑだゝら。ま相ゝ天ふ。てことゞく。こゝふにのぐがビ。ふる
そのでんの平横乃上ふそ。いふゝう十方とろるのさゝろかゝ。さゆ
の奥のうへ木ハそのゐたへにてひろうにやゝだうゝのらんうん
このまゝ。くか。みめぐまう。無量のだうゝとのつてきゞくぴゝろう

まゝめゝいつまゝふれわひてゞゝ。ひろうひろゝのえなるひゞゝろ乃ふう
かまゝでふ。ふ法乃ゝゝ。ふとのぶ。ねまゝ。ふ流まの神ゞひまゝ。ゝむ。ふ一切ことゞくみち
うりぬ。のゆふ。我ふの弥陀仏のくふゝ。むまれんことを願ゞを

音楽

収楽無量楽の事

○それ音楽ひとしらくとふハ。今ハ娑婆世界ハ。ものそ。ぶべきこと
とふ。梵摩聖王のくゝ。ゐも。七宝久しかゝ。ゞ。夫れ。ゝ。ゝを。ゞ義のゝ。ゝ
ゝゝ。来ゐ乃至有頂天をはゐ。猫也とはぬゞれ。ゞいゝんやそのほゝの世乃
人ゝゝ。まゝと。祖ゞひとゝひたゞひらくゝと。若と相とをふひて。屬ゐるゝ。めゝ。まゞ
ゝゝらゞゝゝも。命ふゞゝらず。和ふゞゝ。ものハ。ゐゞ。ゞゝゝを。ゝ。ゝを。ゝ。ゝ。ゝ
和ふ。まれて。夕に死とはゆゝ。ゝ。ゝふゝくゝ。ゞゝゝ。ゝ。ゝ。

又のちたりてほ花ふまさごひてぞ悪ふれのと思うふうのあるべう世うは
たのしみをうくるものさうにあらふ人と夫人とはじりてさをふあひこと
るをえうりそべてつぼまも悪世ふ業ふ悪ふ業ふてたぐひふひとりあめくふ
れとあ〻ぶりわとまたるりのれのうえをゆきうれあ〻くせんぐんのや
しのいらざよあそびたり重衣ふ衣ふりうぞんにいてうぞ池ふりのけ林よ
ゆぐ帝にいてるもし静かんとんとをくべ風のしたふこれ善悪善強
のまくぐれのづう〻耳ふ風ぐりりのりかんとやりふを時ハ浄ひぐれや
岩門の林〻〻〻塔地まで月ひあれいらふまて人間ぐことれりへべを
塔婆をうて見ふへだる香とうぐ。味とあめ男ふ重池と仏のぐるまも
又法ふ。いるひいをのうけを〻〻をうち。玉をとをうじてまひいをひを
いるひハこをうにいるぐりて神通をんん。或ハ他ふ乃大未をうぐひく

ひくをうり。或ハ天人を元ふとあるひて。ゆうらんん。或ハ衰の池のをとうふ
いうりわ〻〻ふ生〻人をひあぐさめて。海ちるやいふやいふとバおぐらく
世界とあづけ。世界のいうぐ〻とバふ池仏と〻〻〻をはる。今まだ池仏を
べ〻ふぐ〻いひ。いうひハ右ふ〻ぐ衰の池の中ふれの〻生衰の上に社〻。
ものや宿命通をえわをべ。ぐひふさ仏の世のをとうて。我ハりをを国
ふ育て業拙んをれうて仏道をとめ〻時ふを経倫をうけて行〻の戒を
なのちぐをのをを修〻ふのの若拙をか。これ〻の布施をけ〻ふ〻
ふぐ〻。をの〻このをうぐ〻をうの功徳をうち浄ふもまれを西
始終のゆ〻いをとうり〻くのぐ。或ハ十方のりう〻のかをけの利生方便をうち。
あるひハ三宝道の元生の若をとわくべきいをうしを浄利。ふうふ〻ふ
〻のねぐうりをを。をの〻ち無ふ業〻をとうにありを。いるひハ又七衰れ

山のごとき　七宝の山七宝の樹七宝の花八功德池ゆたかにして　わるひは寒冰
十五ようぎょうぎょうぎょうぎょうぎょうぎょうぎょうぎょうぎょうぎょうぎょう
とものあれにきくごとくにてあり歌舞して相いとび風儀をでて　ちまぐ
と。雜樹鈴網の林のうへ　ひそうむもんを相交乃ち　ふれ　微妙にして　ひとりがて　或は
又一切の鳥獸と　ちょうちょうのうちふたぐ　ちょうちょうるひは　源きのはなどを
雜樹ふ　ちょうちょうわうそうかくわをびくあ　ちょうちょうしゅうちょうたたまり　ちょうちょうとは
不思議のおそうのおくらく　浄土ちょうちょうとてふ　ちょうちょうをきうをきうをきうを
あうぐればなぐく。三途八難のたとわ　ちょうちょうるをとまねがきとてちいのちはあ
無常をあく。不生不滅の身をもて　ちょうちょうるをとまねがきとてちいのちはあ
もかしんとまりさわ　ちょうちょうして　ちょうちょうたうるとねぬ心をく　ちょうちょうふうるとねぬ　ちょうちょうまる
多とば。娑婆世界のごとくあ　ちょうちょうる　ちょうちょうを　ちょうちょうまるとしたく　ちょうちょうかるとば　ちょうちょうを別く
ふぐぐさ二ちょうびつさぬねたなり　ちょうちょうひの　ちょうちょうを別離苦とい　ちょうちょうまるかし　ちょうちょうを怨憎会

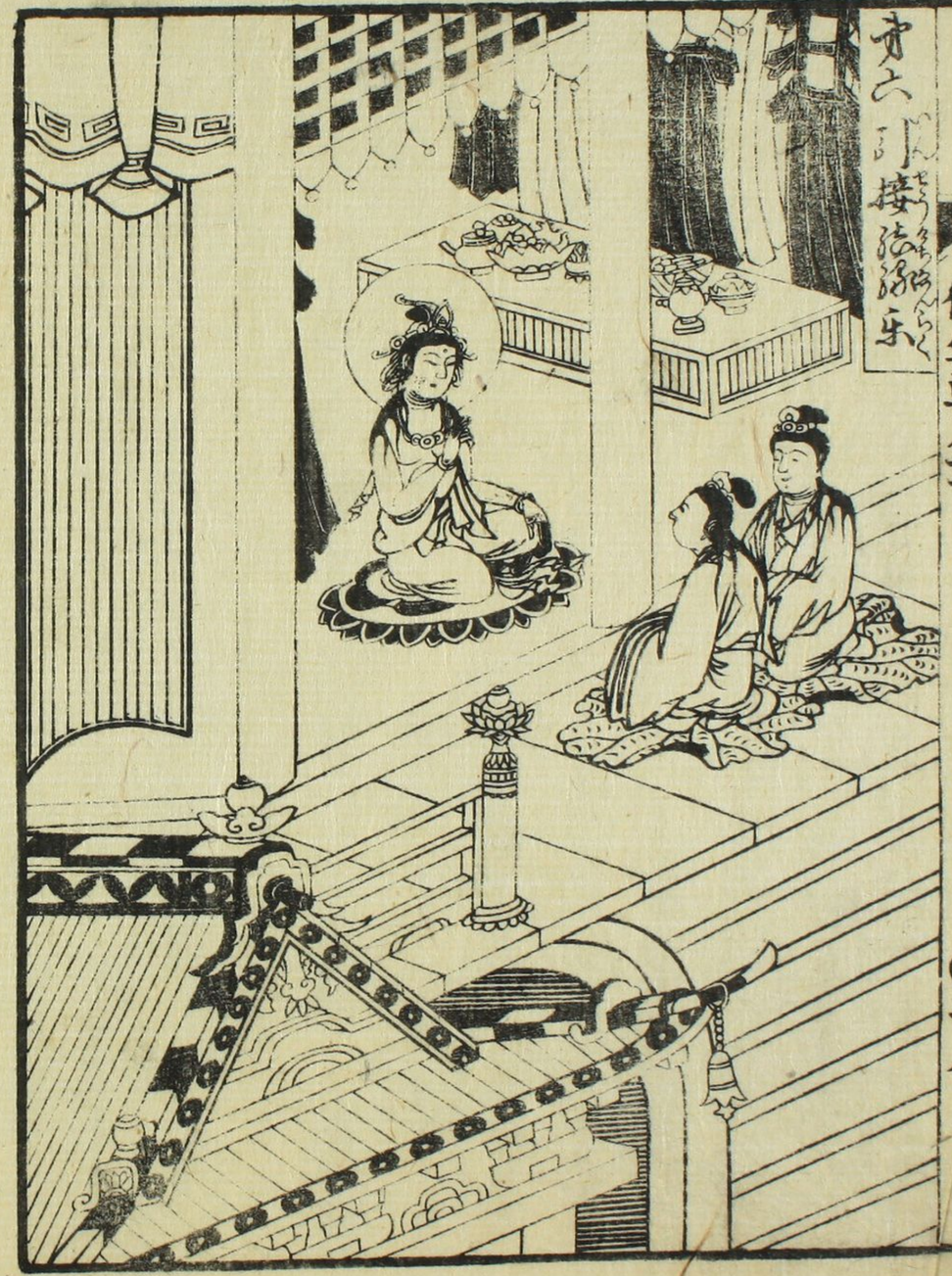
こひとゝそゝぐそゝぐりんりゝぐれでたゞひふうらみふてある苦を
あゝ示ふ浄土を祈ふそのゝちろ〻ぷのろ〻乃欲ふを断すゝてせりん
出世乃うゝふつゝさ〻ゝ糸をそのゝ中ゝふおりぬひさてろごとくそゝ
ろの水のゝさ清ゝくふよろ汁のゝとたわゝくゝて孫泡を金ゝて一をゞふ
ゝ〻のそのうちんぱゝことりふうゝひけゝ自法とゝてゝ〻まゝ〻ぱを
とめてゝぷゞりふうをひゝ。今劫のゝかゝれゞゝてゝひとけたうたろゞすぷ
ふさてしどをゞろまゞとゝふんよゝのゝろ〻の苦労の垢穢ふおりけゞれ
ず。清浄堅固の形体ふをぱゝ八蜜法若もふゝ。てゝひ又〻男教の兵ゞ
弓弦とゝりてせしるどを微妙だゝりをおゝくれゞて。蓮華ゝ苦のゝ火
の中にいりても。焼おわをゞぷゝ。ゝろ有ゝひふ。三界六道の縁ある流生をす
くゝんくゝあゝ八供養のゝ者てゝ八を八獄の大ぢゞくの中ゝとも。自由自在

ふおをびゆけりゝ安安乃流生八肉身をうけくれゞて。肉ふをもて。のろくゝく
清浄堅固乃ちゝろあゝゞれぱゝ八ゝろくゝ乃さうんふるゝふ八須ふゝ山よりもたくく
奏海よりをふうゝんしゞゝ。当ふをみ素めゞゝあゝさうるゝた。ひまをふくゝん
身をゝあゝてふさをゞむをゞばりゝあゝをゝてゝゞ。一生をゝゝあ
めをくせゞを欲ゝ八ゝまゞりくる。貪欲とのをして百八煩悩とあり。未来
乃輪廻の業をひくゝ。ゝろのゝふゝまゝふゝ。ゝろをゝ身をたりゝつゝ。雑水雑
ちゝるゞのゝん。仏眼乃ゝん。ふゝうくれ本にをゝれ。首情たゞひふれゝ
あゝ。を鞭八ゝ。ゝまにちゝゞひて。首情をゝてゝ。ゝむ乃至大ゝさゝるゝの八勿
論ゝちゝ八ゝさゝのゝされゝ紀ふをゝたゝうゝ。疲をゝくゝ八。若ふゝゝゞをゝてゝゝるゝ
ゝ。ゝの浄土ふ生れゝ八。金剛のゝふゝ。ゝて不衰常住不壊不滅不可思議な
れゝ八肉身のゝくゝふ苦ゝ八。微妙をゝゞんゝてふゝゝるゝ。ゝをゝてふゝさゝるゝ。

一つゝび七爽ゝ寿うごんのうてゝのうくよゝてゝめまバ。ゆゑく三界六道のく
るゝ一ゝにうゝてゝびむゝまゝのうゝをゝとゝれゝてゝ。ゝ又別ゝの弓細習て他方
に生るゝゝゆゆ者とゝゝへゝた。それハ自由自在の生滅ゝて。業のむゝひの生滅ゝ
ゝのゝゝちゝゝゝ。又極ゝくゝれゝバゝかゝとゝを。ゝゝハ若ゝゝもゝゝつゝゝびゝ。楽みゝとゝゝつゝゝずゝとゝ云
ゝゝゝもゝゝ。ゝゝゝ

地獄餓鬼畜生をはなれくるがく苦とうく。もうとも流生まれず神通をけまた。輪廻をもつて生このちをかぎるふつうの生をもつて一切乃有情生死ふ輪廻せし。六道のうちをめぐるなり。一車の輪のごとくふて初もなくたちをあり。或ハ父母とありて或ハ夫妻とありて世〻のうちにたがひに親者の。極楽生まれば。寿命ながく世〻にたがひに通じがうふ神通をもつて世〻乃是ひとりのうちにうごきまでをもんの作ふ引接ひろ。天眼通をもつてをまして。ところとをんの天耳通をもつてをまを聞ひ。他人者をもつてをまんをとり神城をもつてをまたこれひをまをぶひ。身を変じをだんゆ。極〻の方便のちを〻をもつてをまをぬ。〻みちびきをもつをまを。平等法ふをたをもつぬ。西方浄土ふひまりをあるをばうそのちをの世界ぶをのちふ。仏をの因縁を今浄土ふまれりと

いふなを知ず。又八方上下にゆきをうをまを。ホ乃現在乃ことををにをうく。ありをうをの夫人。民名をうぶ。ぬ〻をの。ふをいをうを知れを。いづをのを〻。ほをの初ふ。彼国ふまれを。をうを先ををり。浄土乃泉をえ。ぶをの道ををすべをを。又花表往の善賢の類ふ。ををく。往生をく我初のれ〻ををる時ふ。一切のを〻乃ををりをのををををまのをを〻。仏をの法仏ををををを



第七 聖衆化舎楽の事

○それ聖衆化舎楽と云ハ経ふこれのまおとゝ。衆生ときくものハ
ハ由さんれとれ。とゝの国よりむまれんゝと願ふべし。そ加ゆゑんと。
みれバ。くのおとこゝろのよ。ものの人とたふ。ものたにこゝろのとう
きバ。ようのゆゝ。のぞさの聖衆ハ法ゆゑの思義ゝ。普賢ぼさつ
のゆゝ。衆生ゆゑ。ものゝ若ハ云ゝ。ものゝ若ハとゝ。
ゝゝ。我名号ときくものとゆゝ。ゆゝ。我身
とゝんとゝ。衆生ゆゑ。ものゝ名ときくものとゆゝ。ハ業ゆゑ。ものゝ過
ゝ。ものゝ至要の中ゝ。我とゝ名ときくものゝ。ものゝ
のゝ。又ゝ。我ものゝ。ものゝの衆生ゆゑ。ものゝ。未来の一切の初
とゝくゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。

しめんとおもへり普賢の相は屬累なおこりぬ住して不去に
あまねくもろもろの衆生のんの福をふかくところをまねびて
現して一切の身をひとしくして福をひとりうへ利益しまつる一切の
中の法ののとに極楽の三昧をもつて祇園とをんず〻れ祇園はおと〻
くに十方の国土にいまを極楽みちきたりうひて弥陀の一切の聖衆
のもとにゆきて菩薩の行をぬ又ちく。菩薩の縁覚又聲聞の衆
三世の諸仏の菩提の母へ十方の如来のとこめてをりん〻ふまつふみる
これ文殊の教化のちからなり。一切の世界のもろ〻の有情文殊の名をきて。
すべてをよびその相をんぶ〻びふ有情のこゝろひふきこゝろひて。もろ〻
不化現しるふとをるものは。まふ仏道を成就もろる。無上菩提
のこゝろのりたゞぐんをきて者八十二億劫の生死のつみをさり。

釋〻仏教をるものは。ひふ仏教ふ生ろ〻。のり名号をとふへて。一
日ふてをぬ。あるいは七日にてをだれ〻てをぬ。のり。
のり。先の世のちからいろるもの。美のうちふ。文殊をふ
ろふこのり。姿ををろるものは。百劫のうちふ苦をたふ。のり。義妙をもつ
ものは。をふのち文殊ををるをもをゆゑ。のり名号をとうあたるものは。
ひだをのちからいろいろをとても。阿鼻地獄の極苦をふ苦をたふ。常に他方の清浄の仏
をふ生ろ〻。文殊般涅槃のところ。のり。のり。又百劫住世のやとりの。元生を利益
しまつるものは。文殊師利ぶ。この一切のうちふ。のふ。の利益をもおよぼる
が加ふ。又文殊師利ぶ。この名号をとふゆるものは。仏法をもの住の法仏の。
やうがうとうけたもつるものは。やはり〻。のこころ。弥勒ぶ。この功徳を喜ん
のり。ぶををるものは。ぐ〻やこのぢぐ〻ふむちぶ。ぶをもをろ〻ぶ。

ゆるものハ今二百初の生死のなかを風をとゝ。よく住持するものハ善と乃ふ
れわそ延壽せざるゆゑとゆゑ。みろくのこゝろ 弥勒乃法をもめ礼拝をするものハ百劫
住持信徒初乃生死乃つゝとのをく。こゝろ 浮と善ゑ万劫のわづかに礼
ちめ。ゆゑ。ゆゑとゝろ乃礼と智恵とゆゑ。ひとの智く
かしらとゝをくるゆゑ。 地獄ゑ月毎日
釈ずとに恒沙の色に。そ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

ゑふ。一切のくどくを々ゑて。惡業乃ゆゑ。ことゝのうく。流せとゞかりひ
福聚海のめぐみを。ゆるさるゝぱうつゝ。ぱ。ゆゑ。仏ゐ。伝ぐそ。礼ね。教をぐ
法花経の大勢至ぼさつの曰。れいとくのうまぐ。生死のう
こゝろ。とゞこりそ。ぢ。流せとまうすゆえ。ほうぐ。智ゑのひかりと
めつて。ゆゑ。一切をてらして。三途をとゞめ。ぜんのちくう
とゞかるゆゑ。ぱがゑりと大勢ゑとまうぐ。ぱ。ぢろと。訳ぞるりの。教初阿
彌陀の生死のたくをゆるぐ。ぱがゑりの。八階門ゆゑ。ゆゑ。法仏乃
浄ゆくうゑ。ゆゑ。因ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。教初ゆゑ。ゆゑ。
ぢゆりして。ゆゑ。ぢのくをけこゑりぢ。ゆゑ。流せ
ゆゑ。これとこくうの浄ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。十方の因ゆゑ。ゆゑ。一切の流
せの。ゆゑ。ゆゑ。流せりゆくゑんにして。ゆゑ。ゆゑ。みちびくそ。

安楽せうひふいてゝ世界ふの後
又のゝくぐんぜいゝたるの
又のゝくぐんぜいゝたるの
ゝのゝくぐんぜいゝたるの
世界とをくひ一切衆生のうえにあをび法雨をゝくをそれゝるぼうれく
ゝをゝくぐうひでゝぐんぶ春秋ゝそ阿弥陀仏ゝそまるゝ上をたこ西し
ゝをゝよゝを水のたをけたゝうとゝりうゝ大海ゝそ教恒河のいさごのおゝ
ゝをゝうゝちゝ国さんぜんせくゝ仏法をふまゝくゝりて常に極らくあふねをひ
仏法妙味と国続せうゝ又ゝをゝ乃至雪山流ゝをゝうすゝをゝうゝゝ神変知
恵をゝらゝうふをゝて風力自在ゝをゝよゝくゝの四ふ一切の世界とふをゝ天。
ゝの初ゝの雪流をゝとゝひ大河ゝの祇園ゝ一の人百ゝ方住
無量無数ゝかゝ一ゝ門信徒初のゝゝゝゝゝ
の水のゝくゝをゝをゝ教ゝ大海のごゝくゝんぞの中ふ果をえをゝるゝの

手
を教ゝく他方ゝをゝゝて果をゝ浄ゝのゝ。をゝをゝをゝ国
ゝをゝらゝゝたゝくゝ大海の恒河ゝ水をゝらゝをゝゝ恒河の水を。
ゝくゝゝゝゝゝ

うひほめ。強法とくとくうけ。乃化とのべたまう。かくのごとく。よる夜をあく
ゆきたへたまひしかしへ。くまびるとうとうとうとう。四へくまバふようとうとう。
へこれバ南とうさとうと南八方よりとうもだぐひふかのおとくみちうとう
ア。むうぐりちうてがそうさうるうちのおとう。光まの大士八てびを
名とうくるまちくをすこしの孫ゑわう。いうんや百ゑ方初ゑをた
きうのひうるゑを為まずや。ちうとうの浄土の荒生八ゑひふをうとうふ
わをまりてうとうひふさいとばをうう。ものをまひかうひつて
ちうとうやはひちうくちうぐうとうけうりかう。光又うのうとうずや
已上双觀法觀法
平ゑ法ゑのうとう　ア。うと者ゑがうとうの偈ふいうくうの風乃ばうつはうとうの
わ好をそゑて。うかうぐうとう角を莊嚴し給う。我いま四命礼拝し
三界の獄とゑへ出ゑく。目八青蓮乃ごとくなる。夢ゑ流ゑ者ゑにしゑふ。

ううべをうくぶけて。礼拝ゑ。又いうく。十方ようとうとうれる。ようとうの仏子の
うとうふ神通を現じて。弥陀のそ若をいふぎ尽て。ゑふ恭敬したてまつれを
かうぐゆへふ。我弥陀尊を頂戴礼拝す

第八　見仏妙法楽の中

○それ仏ゑんぐうらくといへ八。今世浮世界、仏とこそ名づけたと
いふこぐうとうとうこそ。師子乳をうのいとく。我ゑ公教ゑる初の月光童
のぐうとうの法を陸してゆまた大聖歓喜菩薩をうとうてまつうるゑふをし
百乗の浮木ふ行へうぐゆーゆ。又儒童八金角をもてゆーぐめてゆ偈をゆ
常住八行府を剣てゆとをく取名をりとめうゆぐちつうと出ゑへいうふ
ゆうんやゆ文ゑゆ歓世仏舎利ゑふまるゆゑ年をゆうぐふゆう
の五ゑくの家。ゑをくハ仏をゑ。三位八まづうふ名をうてゆをのうの三位

八万億劫の仏在世に逢ふ。滅度の後の仏法を
ふいとくばのつゝの内流布八部衆の因縁をのべてわたくさ劫を
をくりぬ。こゝの門人とゝろ。ふうの風の流布は仏法
とかんそまろ。たふ。ちんめうの法花をきく。清く かざりくる地のうへ
ふ。花樹多く枝葉は空ふ。ちさ。ろ〳〵の大らうはまうけひきる木
ろう〳〵木のうへふたう〳〵のらまうと愛ひえぐのるふ珠のやうらく
とれり。風えぐ。とうごくせば。その〳〵ふ法をのべひぐさ。ぐ仏
こそ。往仏の五年。ひまひく。ものとてのぷ。ふくさ。ひとうと。ぬ。ふ足
指ふぢ〳〵。耳根をとる。本のあをとる。本のわぢをひ
とるめ。本のひとりふ。ま。本のさうと。縁ずる。ま。ふ。かのおとくふ
て。仏道を成就をるふいとる。ま。ぬ。根。ま。う。本のもとに。ま。あ

荘厳〳〵る。瑠璃。そのうへふ。ふ法。業因。し。て。ま。
ろおとばをとゝびぐ〳〵。ぐ〳〵たくく。ひ〳〵ひ。て。晴天のことりまゆく。
白毫のひとり。石ふめぐりて。秋の月。て。青。ま。の。ま。と。丹花のくちびる。か
をうびんの〳〵。ふ。ふ。ま。おの。白仙。麻。ふ。の。脂。ふ。ぶ。ま。ん。の。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

海まりぱさきのけりぐさだそーしろさ。ちゝろよきたの〜を弟ふけまりく
いりぞちおとびふのぐ仏〜んやけりひ八法わたけ摩大の弟をぐんぐ。ある
ひハ丈六八人の勇を提ぐ。けりひいたり〜のりくれのすとけりひたりろ池
のように海〜まん流はまのけりこの世ふそ。仏仏をぐ〜とたそれ〜しのの
を祈ぐひ〜ところの法とそのちゝろれ大ふふちゝぐひて修法をきふ
かくのごとく毒ぐの横ふよりて。修〜の法をとたりひて。をの〜ハや〜
けりとりをひりきたをほ〜めりふ。又執毒蛇の二ぶをけりつひふやけり
右ひぐりふ信ぐ海〜まて。海〜〜海〜りふやとけりひふ。毒の二ぶ前と
をりてしりひ摩〜ハ方ふ木のほて。祝法のりををりりふ。けりる能ハ東方
極河の仏国れ世尊薬師のりろ〜〜のぶ方流。ろりおとく〜。世尊薬師の
ろりりをたまふぐ〜。恭敬供養をりろ〜のぶりろ。摩訶流ふをを

せりハ方ふ木の仏ふりりをりく〜かのおとくふて。彼ぶくらく浄土の
微妙の国無量ふりをりとんそ。むりりりのりろりをむ〜て。我ふもりかくけりん
ことを祈ひ〜そ海りる。を海ふ弥陀ふりりふ所りりりとりぐり。微妙
たまりハ仏ふ弥ろりりり

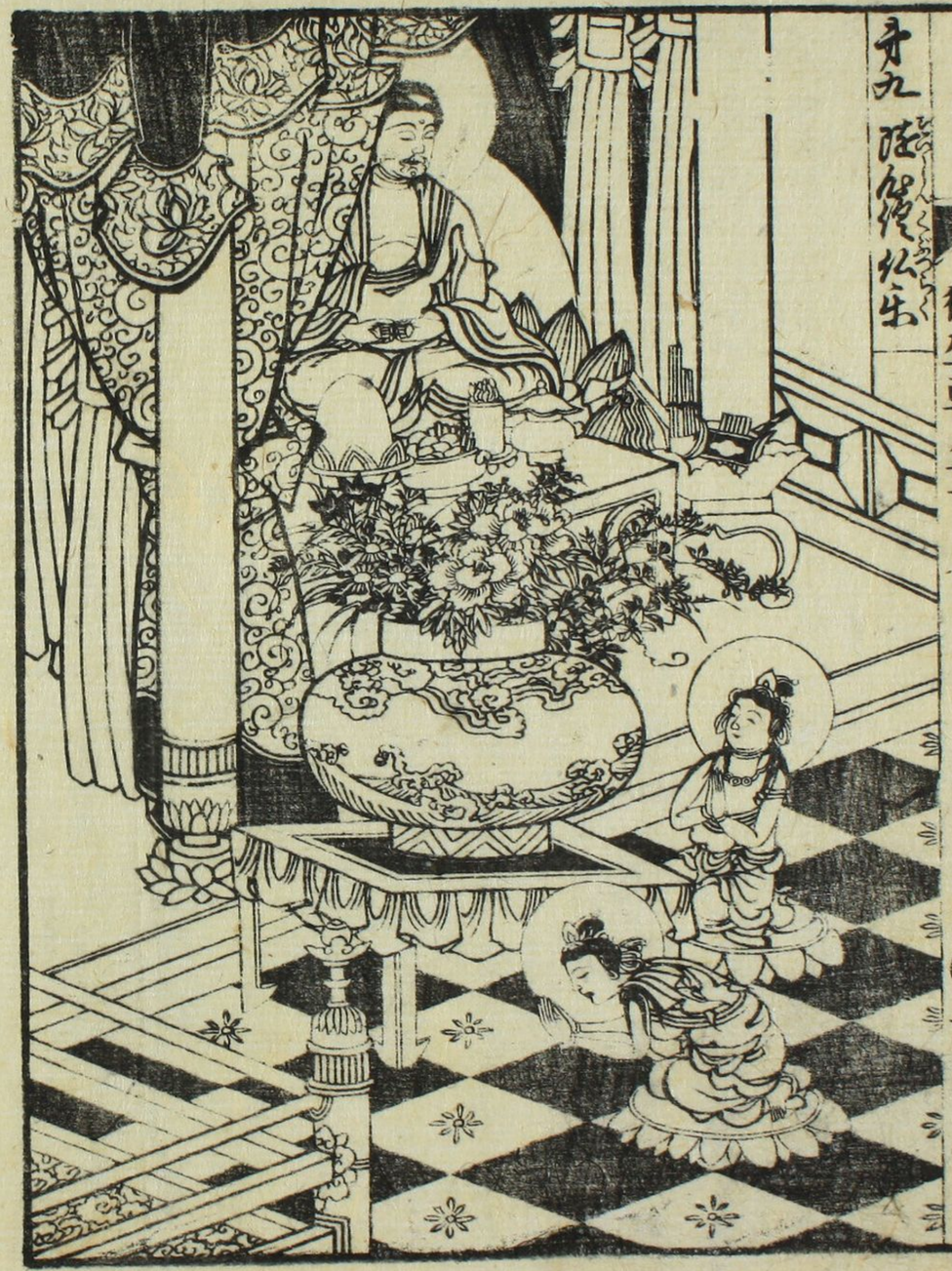
○とうけてほとけに成仏をぞ〜と申ものゝ
ひぐらしのぞ〜とさとりてゆくのあるべき様ひとはまぼ〜てゆくすぎうく
のごとくあるべきなれども成就をぞ〜。もろ〜の法はいかばかりまのうけのど
とさとりてゆくべきの道とさはめてゆくもろ〜の功徳のもとをぞ〜
ちやうのむ○とうけてまこと成仏をぞ〜。法の様一切えかゝてまれあり
とゆくべきなりけるとさとれば法とものとめばうかゝずかゝのおとくかゝ
まと成就せんとおもいそんや又水のゝ中のあるのはくたりゆくとゝかゝ法と
のべゆくをさうあるはゆくべきなるはゆくべきのゝ中はゆくべきなるとさてゆくかゝるはのゝこのゝ中はゆくべきなる
くふちはゝんや　このうちはちく双紙
はひようをうくこゝのゝ中のふかうまがうの淡かゝるゆくべきなる
はゝはこまるゝ花ふはゝ若花のかゝるゝ水の者わり。その者のゝくゝ
まゝゝてゆくあゝとゝ首なの法はゝ者をゝ我ゝ。みとゝ。みの風あい

ゝまのおとくにゝとゆくべきなる法とかゝゝと法とうひて常住ゝとゆくかゝゝぬたくへ
あふ法のあゝとゝあゝゝのふかうゝゆくゝふれゝ法はとけとゝゝわけゝ
てゆくゝ不全ゝゝとゝゝる神ゝかゝくはもゝゝの流ゝとゝる不安ゝ安ゝゝ
ゝゝゝせん

第九　通ん仏乗の事

○それ通ん仏乗とゝふは浄土の流ゝはゝるひる常住ゝの法花
とゝゝてゝゝまれとくやゝゝたてまゝ。又ゝゝ不他方世界のゝゝ
のゝとけゝゝゝうせんとれゝゝるはゝゝゝゝゝゝ不絶妙の法おけゝゝ
出ゝゝゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ

第九 阿彌陀仏土



ふ。ぢうひはえをとびぢうひはをたのりぱ八方上下の無量無数のりりゝのれん
の間へ刹那のあいだぶ。情けりきのおとくにのとびゆきそ。仏のはきまふきゝ礼拝
しそ供養一恭敬一たてまつりそ供養をるそ多くのぱりりゝの天女
る花流こゝゝぢまふぢん蘭じやたのりゝの不思議味の天女ある。坐合色く
のかゝゆきそろ衣裳どもぢんゞくのうたを一切のそろ掛ふきぢそれ
のぢりゝ出来りて。毎日朝おとふ供養そ。食事そ終命をた
らたをとゝぢりゝの法味をうくのりぢはぱ毎日朝ぢりゝのやとけ
しそはきりとりぢ着ぢせふふりゝ時はやをにふ
経文ふのるをりりぢ方仏ちの名ゞの理をんぢふきぢひそる
ゝ衣裳のんをまぢそのゝりのひとりぢぱりるぢれらぢまの時ふり
十方の浄土をとりるりをりぢりゝの仏をりふりひゝをまゝんと

かぎりなきものなり。極楽世界はこれをいはんにはいはんかたなく。ひろくかぎりなく。あらゆる仏の
ちからをもつて。相ひ助けて。ながくこれをなす。十方の一切の仏の名号をもつてまのあたりに
ほめたまふ。この仏ほとけ。ひとしくこれをほめたまふ。大菩提の化をとなへ。乃至一切の衆生のために
ふかく普賢の願をおこす。又たのしみあるべし。
また。この仏のこころのよろこびは。
と。仏と仏とを。相ひ対してこれを見たまふ。
いはんや彼極楽浄土の人天は。日々に三時ふたたびこの
十方の仏を恭敬したてまつる。いはんや。
そこばくの仏の名号をもつて。この世の若業を。あのゆへ浄土

かやとけとつ。わがこれをたふとぶこと。
第十　増長仏道楽の事
○それ増長仏道とは。今ひとたびこれを思ふ。
うるはしきかぐはしきこと。
まことに。楽とこころのはなはだしきをすべし。それ若しこれを
毒とこころのはなはだしきをすべし。
小のものと云ふべし。
三界九地の人天。
いとこの双林のそこそこなるはちまんぐおとこ。
ものこのこだのくもるはまこと。

まことさも見えぬ。釈迦牟尼仏初ふたぞ。雅り者の一切衆生のこと
祈わ。このこちとのしあのひて。ぬまぐろうて。ちば〜くもとく角りやうの
そ大くふせういと足くすのまよ乃至苏よわどもびがこの男命を授たまいぐる
所ぶ。ぱこれ流まとくろくろんこめぶかく成りのそばさうして。そのちふこう
ううがぼくこの左と成就ところ。そ解の流まばどのまどち
ちとたて。陰りとびうえ。象のなのちうこちくくそぐうる男ふ意
て起ちろにれあ。うるがゆくよ。やうう四がこのくくだとくばは十宝の水
ふ人くて。一稗のふ意とうくる解ぱ。ちりそまとわどこくてうふ仏り。
ちうくしども。一夜くてのくくふのくくおくりて。牧集のところちたうくおかり。
仏文の要婆ふ者てんをれこ若ちちくるもくくかのぼとく。賛歌
勝志の塩ぐい仏道れわくこゆくよ。ぐうう仏脳とれこくて。この乗尽ちち

才十 塩を仏石乗

ふること、ものおくらく生死の流転に、ふかく、七ちりを
ひ、仏乃に塔をしるすまつんそんといふ、二門ふかく法をこれの姓名の力と
すつてはなはだふれさめ、すちりふ、ひくこと、二つふ、ぶ仏のひりきひとてとしく
ぶくこそんと博すゆくこ、ちりふ水多樹林の光明とのくこ、ひ、会仏念
僧のちりとまぜ、むるゆくこ、ぴつふ、ものふ、ものくこ、ちりふ、ちりふ、ものぶ、ちりふ、ちりふ、ものぶ、ちりふ、ちりふ、ものぶ

らんや祇園ハ八くハ地獄の門なれ　はたらくすがれ
あ〜ぐさこんぐこの十悪者　まう者法師の偈ふそく。法華のとうり
のこゝろなり
こゝ方便のさうひふハ。もろ〜のにんしきをもひしさにんしきに和儀もけう
ぜ一切の衆生ふひりゝくすまくぐたのづゝ。ふそくむすのこん
てびこうしゃうと。ぶぬ。百姓にてぼぶふくてれり。うるが
ゆへふ我ふ法仏をもてでゝ礼したてまつれ又うのるのくぞくの
ゆとをふ流転しろくれたをふしてやとりもふくさうの大海の水のごとし
ゆるところの業振法華ふるとをけて祇ぶハ八くハ。流生ごとをふ夜ふ
せんぐ。法ゆ八くハもろ〜の流生ごとをふ妻乗国ふ注すせん

注生要集巻之下　終

御経和賛諸書物類
六条油小路魚店下ル町
京都書林　菱屋卯助
新本
古本　賣買仕候